国語科学習指導案

世羅郡世羅町立大田小学校教諭　宮本　佳宏
寺田　知巳

1　学　年　　第６学年

2　単元名　　６Ａクラス討論会をしよう

3　単元について

○　本学級の児童は，アンケート調査や新聞づくりなどの学習に意欲的に取り組むことができる。例えば，５年生のときに学習した「調査したこと（みんなの読書生活）」では，進んでアンケートを作成したりインタビューしたりすることができた。そして，調査したことを整理し，報告文を書くことができた。

「聞くこと」「書くこと」については，６年生５月の「養護の先生から」という単元で，メモのとり方を学習した。その学習では，聞き取ったことを記号や波線，矢印などを使ってメモに整理することが目標であった。ほとんどの児童は，整理したメモにすることができたが，聞き取ったことをただ書き記すだけの児童も数名いた。

「話すこと」については，ふだんの授業で，常に自分の考えをもつことを指導しているが，発問中心の一斉授業では何人かの児童中心の応答となりがちなので，できるだけ時間を確保して，全員が考えをもった上で話合いに入るなどの工夫をしている。また，はっきりした声で話すことも併せて指導しているところである。

○　本単元のディベートは，児童にとってはじめての学習である。ディベートは，ゲーム的な要素をもった次のようなものである。

(1) 論題を設定し，肯定派，否定派に分かれる。
(2) ルールにしたがって，両派が立論，質問，反駁，最終弁論を行う。
(3) 審判が説得力という話合いの観点で勝敗を決定する。

ディベートは，これから本格実施される「総合的な学習」にもつながる学習で，次に述べる３つの特徴がある。

第１に，児童の興味・関心に応じた現代的な「答えのない」問題を扱うことができる。ディベート体験によって，「今，問題になっていることは何か。」「それについて，みんなは，どんな考え方をしているか。」「いろいろある考え方の中で，どれがもっとも納得できるか。」と考えがめぐり，児童が「自ら考える」ことにつながる。

第２に，相手を無視したり，自説を一方的に発言したりするなどの態度であれば，審判によい印象を与えることができない。したがって，相手の主張を正確に，しかもおだやかな態度で聞きながら，感情的にならずに「自分たちの頭で考えた論理」でもって相手を説き伏せる必要があることから，「議論を体験的に学習する」ことができる。

第３に，ディベートはゲームとしての勝ち負けがあるので，「競争・協力」のマナーや態度を養うことができる。相手のグループに勝ちたいという意識から競争的になるが，チーム内では，互いに考えを出し合い，「相手を説き伏せる」という共通の目標に向かってチーム内の協力が必要不可欠である。

このように，ディベートは，「聞く・話す・書く・読む」という言語の総合的活動を仕組むことができ，なおかつ，相手の気持ちを大切にする心情を養ったり，チーム内で協力するといった態度を育てたりすることができる学習である。

また，説得力のある意見をまとめるための学習活動を通して，アンケートやインタビューなどから情報収集を行い，集まった情報を取捨選択して活用する能力を育てることも期待できる。

○　指導にあたっては，Ｔ・Ｔのよさを生かして，次のように取り組んでみたい。

(1) 基礎・基本の力をつけるために

ディベートは，児童にとってはじめての体験である。したがって，導入において，Ｔ１とＴ２でモデルディベートを行い，児童にイメージをもたせるとともに意欲を高めたい。その後，情報収集を行い，立論・反駁の仕方などの指導を行う。また，同時にミニ・ディベート（教師対各児童で 10 分程度のもの）や原稿用紙ディベート（個人でやるもの）などを適宜行う。その中で，立論に対する質問の仕方や反駁の仕方を指導したい。

(2) 自ら学ぶ力をつけるために

今回は，ディベートの論題については，次の観点で教師が示す。

① 児童の興味・関心に応じたもの
② 学校生活における自己を見つめなおすことができるもの

現在考えているものは，次の４つである。

「大田小学校は，宿題をなくすべきである。」
「大田小学校は，シャープペンシルの使用を認めるべきである。」
「大田小学校は，自転車通学を認めるべきである。」
「大田小学校は，給食をやめて弁当にすべきである。」

この中から，興味・関心に応じて児童に論題を選択させ，肯定派と否定派に分かれる。その後，それぞれのグループで情報収集の方法を考える。アンケート・インタビュー・文献調査・教師の用意した資料など，さまざまな情報収集の方法があるが，今回は，アンケートやインタビューが中心となるであろう。

立論・質問・反駁・最終弁論のそれぞれの段階では，手引を用意して，児童ができるだけ自分たちの力で学習を進めていけるように支援したい。また，Ｔ・Ｔで，３グループずつのアドバイザーとして，児童の相談にのるようにする。

準備ができたら，児童の個性を生かして，グループごとに役割を分担し，それぞれが活躍できる場を保障したい。

教室には，モデルディベートの内容を模造紙に書いて掲示し，児童が困ったときは，それを見て参考にできるように学習環境を整えたい。

会の進行についても，できるだけ児童に任せ，児童自ら自主的に運営できるように指導していきたい。

また，勝った・負けたという形式的な価値だけに目を奪われることなく，常に児童のやる気やがんばりを認めて評価していきたい。その中で，「話す・聞く・書く・読む」といった言語能力を伸ばしていけるようにしたい。

これからの変化の激しい社会を生きる児童が，一人の人間として，多くの情報の中から的確で必要な情報を収集し，それを自分に合わせて咀嚼し，正しく判断して自己の生き方を決定していく力をつけることは，これからの学校教育の大きな使命でもある。その意味で，今回のディベート学習は，そのねらいを達成するための一つの教材になりうると考える。

４　教材・資料・参考文献

○モデルディベート（宮本対寺田：自作資料）
○「小学校ディベートがてがるにできるモデル立論集」全国教室ディベート連盟（学事出版）
○「ファックス資料集　小学校ディベートワークシート」全国教室ディベート連盟（学事出版）
○「教室ディベート２　小学生でもできる教室ディベート」佐久間順子著（学事出版）

5　単元の目標

(1) 基礎・基本について
○ 事実と意見を区別しながら，自分の考えを効果的に書くことができる。（書くこと）
○ 考えたことや自分の意図が分かるように話の組立てを工夫しながら，目的や場に応じた適切な言葉遣いで話すことができる。（話すこと）
○ メモをとりながら相手の話を正確に聞くことができる。（聞くこと）

(2) 自ら学ぶ力について
○ 論題に対して，自分の考えをもつことができる。
○ 論題に対して，意欲的に資料を収集・選択することができる。
○ 議論する相手の心情を考えながら，和やかな雰囲気で議論することができる。
○ 討論会を自分たちで計画し，運営することができる。

6　学習指導計画（全１３時間）

<table>
<tr><th>展開過程</th><th>時間</th><th>学習活動</th><th>学習形態</th><th>つけたい力
（基礎・基本と自ら学ぶ力）</th><th colspan="2">学習状況の評価と支援</th></tr>
<tr><td rowspan="2">動機づけ</td><td>1</td><td colspan="3">「６Ａクラス討論会をしよう」</td><td colspan="2">○教師対教師のディベートにより，自分たちもやってみたいという意欲を高める。</td></tr>
<tr><td>○Ｔ１とＴ２のモデルディベートを聞いて，その様子を知る。</td><td>一斉</td><td>○ディベートの様子をイメージし，活動への意欲をもつ。</td><td>Ｔ１：肯定派</td><td>Ｔ２：否定派</td></tr>
<tr><td rowspan="2">課題を見つける</td><td>2</td><td>○ディベートの詳しい方法を知る。

○興味に応じて論題を選択しグループをつくる。
（肯定派と否定派に分かれる）</td><td>一斉

一斉
グループ</td><td>○ディベートの方法を理解できる。

○論題を選択することができる。</td><td colspan="2">○模造紙に書いたディベートの手順を見て，概要を理解できたか。（評）</td></tr>
<tr><td>Ｔ１は全体に説明する。</td><td>Ｔ２はグループへ個別に支援する。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">解決への見通し</td><td>3
4</td><td>○肯定派と否定派に分かれて，立論をたてるのに必要な情報収集の方法を相談する。

○アンケート・インタビューなどの内容を考え，アンケート用紙やインタビュー用紙を作成する。</td><td>一斉
グループ</td><td>○情報収集の方法を決めることができる。

○アンケート用紙やインタビュー用紙の作成ができる。</td><td>Ｔ１は最初全体に指導し，その後グループへ個別に支援する。（肯定派を支援）</td><td>Ｔ２はグループへの個別支援にあたる。（否定派を支援）</td></tr>
<tr><td colspan="2">○アンケートやインタビューの仕方についての手引
○教師の用意した資料は，児童の実態を見てグループに個別に提示する。</td></tr>
</table>

基礎・基本の力をつける取り組み	5 6 7 8 9	○グループごとに分かれ，ディベートの準備を行う。 ・アンケート用紙の回収と集約 ・インタビューの実施 ○相手の主張を予想し，必要な情報を選択する。 ○肯定派・否定派それぞれ立論原稿・最終弁論原稿を書く。 ・グループで原稿を読み合い修正してまとめる。 ○質問・反駁の仕方を学習する。 ○役割を決定する。 ○審判の判断の観点を決める。 ・態度はどうか。 ・話し方はどうか。 ・筋道が通っていて，説得力があるか。	グループ 個人 グループ 個人 グループ 一斉 一斉	○グループ内で協力して学習をすすめることができる。 ○必要な情報を集めることができる。 ○相手の主張を予想することができる。 ○情報をもとに事実と意見を区別して立論を書くことができる。 ○教師の立論に対して，質問・反駁することができる。 ○審判の判断の観点を決めることができる。	Ｔ１は肯定派の３グループを担当して支援する。 ○必要な情報を集めることができたか。（評） ○反論を予想するためのワークシート ○立論作成のためのワークシート ○友だちの立論原稿からよいところを見つけることができたか。（評） ○質問・反駁については，ミニディベートを行い力をつける。 ○審判の手引 ○どんな観点で審判にのぞむかを理解できたか。（評）	Ｔ２は否定派の３グループを担当して支援する。
応用・発展	10 11 12	○６Ａクラス討論会を実施する。 （本時は 11 時限目）	一斉 グループ	○学習してきたことを生かして実際に討論することができる。	○発表者は相手の主張を聞きながら，自分の意見を述べることができたか。（評） ○審判は，発表のメモをとりながら根拠をもって判断することができたか。また，発表者のよいところを見つけることができたか。（評）	
ふりかえり	13	○学習をふりかえり，心に残ったことを書く。	一斉 個別	○学習をふりかえり，自分のよかったことやこれからの課題が分かる。	○ふりかえりアンケートを用意し，集計して，今後の指導に生かす。	

7　本時の学習（１１／１３時限）

○ねらい

・発表者は，論題について自分の意見をはっきりと相手に伝えることができる。

・審判は，メモをとりながら正確に聞くとともに，観点にそって判断を下すことができる。

○展　開

展開過程	時間	学習活動	学習形態	つけたい力（基礎・基本と自ら学ぶ力）	学習状況の評価と支援
課題提示	0	「６Ａクラス討論会をしよう」 ・発表者は，相手を説得する気持ちでおだやかに話をしよう。 ・審判は，メモをとりながら聞き，観点にそって自分で判断しよう。		○課題を確認し，それに対して取り組む意欲をもつことができる。	
課題追究	5 10 20 35	１．討論会をはじめる。 ①肯定派・否定派の立論を行う。（各２分） ②作戦タイム（３分） ③否定派・肯定派の質問（各２分） ④作戦タイム（３分） ⑤肯定派・否定派の反駁（各２分） ⑥否定派・肯定派の最終弁論（各２分） ⑦判定（２分）	一斉 グループ	○用意した原稿を参考にして相手を説得する気持ちで話すことができる。 ○相手に対する質問を協力して考えることができる。 ○相手の質問を受けて対応することができる。 ○審判は，フローシートをもとに，自分の判断で根拠をもって判定できる。	○司会者が運営する。 ○司会者の手引 ○審判用のワークシート・手引 ○必要に応じて相談にのる。　（Ｔ１：肯定派　Ｔ２：否定派） ○時間は決められているが，様子を見て延長するようにする。 ○質問を書くワークシート ○相手の質問に対応した反駁ができたか。（評） ○判定の観点を確認する。 ・態度 ・話し方 ・説得力 ○根拠をもって判定できたか。（評）
ふりかえり	40	２．本時をふりかえる。 ○ふりかえりカードへ記入する。 ○教師の評価を聞く。Ｔ１，Ｔ２	個別 一斉	○よかったところ，これからの課題を見つけることができる。	○本時の課題に対してどう取り組んだか。どのような成果があったか。どんな課題が残ったか。（評）